

詩と絵

ふれジョブのデザイン 人間の欲望をおさえて「1時間」だけのつながりを楽しむ

- ① 四葉の真ん中に特定の力（宗教・既存の障害者団体・就労支援・自治体や企業からの助成など）が入り込まない。
- ② 障害のある子どもとその親は18歳でふれジョブを卒業する
- ③ 自治体の宣伝や企業の販促場所に利用されない。国策がらみの予算に翻弄されない。

②の説明 なぜ18歳卒業か？

その1：

子ども時期には卒業がある。児童期・思春期・青年期・壮年期40、50歳、老年期60歳になっても親から子ども扱いされたままでは自立できない。また親も一人の人間として成熟しない。障害のない子ども（10歳から18歳）は自身の力で親から離れることができるが、障害のある子どもは親離れの力が低い。その自覚のない親は共依存し過保護になる。卒業を仕組みにした理由である。

その2：

親がふれジョブの会にそのまま滞留して会を乗っ取らないため。既存の親の会（手をつなぐ育成会など）に起きる事象として、人の滞留がおきることで特定の親の権力勾配を生む。ふれジョブ「1時間」は権力（地位・金）から離れて参加者すべてが対等になる時間が生まれるよう、ふれジョブのデザインに込めている。

まとめ

障害のある子どももその親も18歳で対象事業は卒業する。一人の地域人として、その後は8年間で回復した自信をもって障害のない人々と共に活動する別の会合に参加し、差別と偏見に満ちた厳しい社会を耕してほしい。卒業した保護者がふれジョブを乗っ取ることはできない。